

TV 報道検証【報道特集】 報告書

|   |          |                |
|---|----------|----------------|
| テレビ局： TBS   | 番組名：報道特集 | 放送日：2020年1月18日 |
| 出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙<br>※金平キャスターはイランから中継  |          |                |
| 検証テーマ： オープニング、ルーブル美術館がストライキで休館、共産党大会<br>【特集】 二つの核保有国～対立の最前線   |          |                |
| 報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2000年世田谷一家殺害事件の現場となった住宅内部が初公開</li> <li>・ オープニング</li> <li>・ センター試験始まる</li> <li>・ 岡山市で45歳女性が自宅で腹など刺され死亡</li> <li>・ ルーブル美術館がストライキで休館</li> <li>・ 香川県三豊市で大型バスと乗用車が正面衝突</li> <li>・ 共産党大会</li> <li>・ 新潟県五泉市で住宅火災</li> <li>・ 山形県南陽市で住宅二棟が全焼</li> <li>・ 雪不足に見舞われていた石川県でスキー場がようやくオープン</li> <li>・ 新宿区歌舞伎町の飲食店で四人組が店員3人を刺して逃走</li> <li>・ 東大生が強制わいせつ容疑で逮捕</li> <li>・ アメリカのユタ州で小型飛行機が住宅街に墜落炎上</li> <li>・ 【特集】 緊急取材！激動のイラン</li> <li>・ 【特集】 二つの核保有国～対立の最前線</li> </ul>   |          |                |
| 放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープニング：結論→特に問題なし<br/>                     番組の冒頭で中継の金平キャスターの「イランの首都、テヘランにきています、こちらちょうど正午を過ぎた頃の時刻なんですけれども今、雪が降っていてとても寒いですが、アメリカとの緊張が極度に高まる中現地入りしました。イランの人々は、そして政治や宗教のリーダーたちは今、何を考え、どこへ向かおうとしているのか、後ほど中継を交えてここ、テヘランからお伝えします。」というコメントが取り上げられていた。このシーンに当てられた時間は30秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・ ルーブル美術館がストライキで休館：結論→特に問題なし<br/>                     膳場キャスターの「フランスのルーブル美術館がストライキにより休館し、日本人観光客らが入館できなくなりました。」というコメントを受けて以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。<br/>                     「大八木友之（報告）「ルーブル美術館の象徴、メインエントランスの前をデモ隊が占拠しておりまして、中にはいることができなくなっております。」<br/>                     ナレ「現地、17日朝、ルーブル美術館の職員らが加入する労働組合がストを通告し、およそ100人のデモ隊が入</li> </ul> |          |                |

口前を封鎖しました。この影響で世界最多、年間およそ 960 万人が訪れる美術館は休館を決定しました。」 "

"フランス人観光客「本当に腹立たしいです。フランスがどんなイメージで見られるでしょうか。」

日本人観光客「パリに来れるのは今日しかないのでもっともう残念です、モナリザ見たかったんですけど。」 "

ナレ「フランスでは先月 5 日から交通機関を中心に大規模なストライキが続いていますが、一連のストでルーブル美術館が休館したのは初めてです。」

ルーブル美術館職員（組合員）「政府が話を聞かないから美術館を封鎖するしか無いのです。」

ナレ「美術館は組合側と交渉し、早期に営業を再開したいとしています。」

このトピックに当てられた時間は 78 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ 共産党大会：結論→特に問題なし

ナレーションによって「共産党は党大会を開き、16 年ぶりに党の綱領を改定しました。中国の覇権主義に対する批判などが盛り込まれています。大会決議では次の衆院選に向けて野党共闘を強化する方針を決定しました。また、桜を見る会をめぐる問題の火付け役で野党による政府追及の急先鋒となっている田村智子参議院議員が政策委員長に信任されました。」とのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 34 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】二つの核保有国～対立の最前線：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「次の特集です。世界でも最も核戦争が起きやすい地域の一つとされるのが、インドとパキスタンが長年領有権を争って緊張が高まるカシミール地方です。忘れられた紛争地とも言われるカシミールで今何が起きているのか現地に JNN のカメラが入りました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

ナレ「インドとパキスタン 2 つの国にまたがるカシミール地方。かつては東洋のスイスとも呼ばれていた。そのカシミール地方に流れを刻むニューラム溪谷。パキスタンが実効支配するジュラ村は、インド側との停戦ラインに近く、去年 10 月両軍による交戦で被害を受けた。現場を取材することができた。」

記者「激しい砲撃の跡が生々しく残っています。完全に破壊されたこちらの建物では、市民一人が亡くなったということです。」

ナレ「住宅と学校の校舎。一続きになっていた建物は、瓦礫の山と化してしまった。核保有国同士のインドとパキスタンは、カシミール地方の帰属をめぐる、70 年以上対立を続けている。」

ナレ「核戦争の危機が指摘される中、去年 9 月、パキスタンの首相は国連総会で、

パキスタン首相（吹替）「核保有国が戦争すれば、国境のはるか外側、世界に影響が及びます。だから私は何度もここに来るのです。警告します。脅すわけではないが、まさに懸念があるのです。」

ナレ「2008 年、南インドのムンバイで世界に知られるタージマハルホテルなどを狙った同時多発テロ。日本人 1 人を含む 160 人以上が犠牲となった。」

ナレ「インド側はカシミール地方のイスラム過激派の犯行と主張したが、パキスタン当局は関与を否定。テロの度に非難と報復が繰り返されている。」

ナレ「去年 2 月にはカシミール地方で自爆テロが起き、インドの治安部隊、少なくとも 40 人が死亡した。」

ナレ「これに対してインド側は、犯行がパキスタン国内の勢力によるものと見て、48 年ぶりにパキスタン本土を空爆した。」

ナレ「これはその空爆の際、インド空軍機をパキスタン側が撃墜した映像だ。機体の周りで人々が歓声を上げて

いる」

ナレ「一方、インド国内でも、ナショナリズムが高まっている。去年 5 月には総選挙が行われ、強いインド路線を押し進めるモディ政権が圧勝した。」

男性「モディ！モーディ！」

ナレ「力を得た第二次モディ政権は八月、インド側カシミールの自治権剥奪や、停戦ラインの封鎖に踏み切ったのだ。」

ナレ「そしてインドは停戦ラインに近いパキスタン側カシミールのジュラ村などを、深夜砲撃した。」

男性（吹替）「兄を起こし、防空壕に避難しようと言いましたが、お前だけ生きろ。兄の遺体はそこにありました。」

ナレ「壁に刻まれた無数の穴。インド軍が殺傷能力の高いクラスター爆弾を使用したとパキスタン側は主張する。」

ナレ「クラスター爆弾は空中で一つの爆弾が、数百個の小さな爆弾を撒き散らす。民間人も無差別に攻撃する残虐な兵器だ。」

ナレ「インド政府はこの攻撃でパキスタン側のテロ組織の三つの拠点破壊し、複数の容疑者が死亡したと主張している。」

ナレ「だが住民たちはテロとは無関係だと訴える」

男性（吹替）「みんな知っていることですが、私たち兄弟は、この村で家庭用品の店を営んでいました。テロリストではありません。」

ナレ「さらに取材を進めると、」

JNN バンコク支局 大平弘毅記者「砲撃は村の市場にも撃ち込まれました。道路に着弾した跡が残っています。周辺の商店は破壊され閉鎖を余儀なくされています。」

男性（吹替）「インドは残酷なことをします。この市場には普通の店があるだけなのに。パソコンやモニターが破壊されて、70 万ルピーの損害が出ました。」

ナレ「この男性は自宅を破壊された。」

男性（吹替）「私たちはずっとここに住んでいます。インドはテロの拠点だと言いますが、見てください。インドが攻撃したのは、民家です。」

ナレ「校舎を失い、民家の庭先で、授業を受ける村の子どもたち。パキスタン側はこの時の砲撃で住民 6 人が死亡し、5 人が負傷。インド側にも死者が出たとしている。問題の根源には何があるのか。」

ナレ「これは 1947 年の映像だ。イギリスによる植民地支配が終わり、カシミールの平原に集まった大勢のイギリス人家族が次々と軍用機で飛び立っていく。」

ナレ「イギリスの植民地支配が終わるとヒンドゥー教徒が 8 割を超すインドと、イスラム教徒が主体のパキスタンが分離独立した。」

ナレ「その時カシミールはヒンドゥー教徒だった地元指導者が、インドへの帰属を宣言。しかし住民のほとんどはイスラム教徒だったため、両国がカシミールの領有を主張した。」

ナレ「そしてこの年の 10 月に、第一次印パ戦争が勃発。2 年後にカシミールを分断する停戦ライン が設けられた。その後も印パ戦争は第 3 次に及ぶなど両国は衝突を繰り返してきた。」

ナレ「その停戦ラインでの取材が、パキスタン軍同行のもと、特別に許可された。」

記者「停戦ラインのパキスタン側チェックポイントです。川を挟んでパキスタン軍とインド軍が対峙しています。」

ナレ「2 4 時間体制。狭い谷を挟んで銃口を向けあう緊迫した現場。インド側の施設も間近に見える。」

ナレ「二つの核保有国インドとパキスタンが対峙するカシミール地方。私たちはその最前線取材することがで

きた。」

ナレ「パキスタン軍の担当者は溪谷を挟んだ両軍の配置図を示しながら、インド軍は民間人を標的にしていると怒りを込めて訴えた。」

ナレ「これはおとしパキスタン側カシミールで撮影された監視カメラの映像だ。山道を歩く住民のすぐ近くで着弾し、白い煙が上がる。パキスタン側はインド軍の無差別な砲撃でこれまでに子供を含む多数の死傷者が出ているとするが、インド側は正当な軍事行為だと主張している。」

ナレ「強いインドを路線を押し進めるモディ政権は、去年、カシミール地方のインド側ジャムカシミール州の自治権を強制的に剥奪し、インドの直轄領とした。」

モディ首相（吹替）ジャムカシミール州とラダックは、インドに平和と繁栄をもたらすでしょう。」

ナレ「インド側カシミールでは、これに反発する市民の暴動がおきた。これに対して、インド政府は、数万人規模の治安部隊を派遣。これまでに現職の国会議員を含む政治家や反政府系の活動家など 5000 人以上を拘束した。さらにメディアによる取材を規制し、携帯電話などの通信を遮断。インド側カシミールからの情報は封鎖された状態が続いている。そこで今何が起きているのか。」

ナレ「幼い頃にインド側からパキスタン側に移住したイスラム教徒のサヘルさん。現在もパキスタン側で弁護士として働いている。」

ナレ「インド側には妹家族が住んでいるが、4ヶ月以上も連絡が取れない状態が続いていた。」

サヘル氏（吹替）「こんなに長く通信が遮断されるのは前代未聞です。心配で心配で言葉にできません。」

ナレ「スマートフォンには妹と姪の写真が。連絡が取れていたのは自治権剥奪の4日前。去年8月1日までだった。」

サヘル氏（吹替）「甥は外出するのも難しいと言っていました。そして私の SNS の写真を変えてほしいというのです。写真の背景にパキスタンの国旗が写り込んでいて、インド軍から問いただされたと言っていました。」

ナレ「モディ政権による締め付けでインド側の住民は移動の度に軍のチェックを受け、SNS の連絡先まで調べられると言う。」

ナレ「この女性もインド側にいる親戚のことが心配だという。」

女性（吹替）「向こうでは、家から出られず、食料も足りないのので、複数の世帯で分け合っているそうです。学校にも行けず、薬も買えず、ATM でお金も下ろせないと言っていました。今では SNS でも電話でも連絡は取れません。生きてるか、死んでいるかもわからないのです。」

女性（吹替）「両親や兄弟、親戚もいますが連絡が取れません。」

ナレ「二つの国に家族が引き裂かれたシミールの人たち。」

女性（吹替）「ただ自由と人権が欲しいだけ。他には何もありません。」

ナレ「なぜ今インドは強権的な動きに踏み切ったのか。南アジア地域の安全保障の専門家はこう分析する。」

防衛大学校 准教授 伊藤 融氏「今、なぜこれを行ったのかという観点に絞って言うと、やはりその、このモディ政権、および与党インド人民党”BJP”の掲げるヒンドゥーナショナリズム。そのインドをヒンドゥー教徒を中心とした強いインドにすると。そういう動機が非常に強かったんじゃないかと思っています。」

ナレ「ナショナリズムが高まる中、核戦争を懸念する声が絶えない。」

ナレ「インドは1998年5月に核実験を繰り返し行なった。すると同じ月にパキスタンも地下核実験の実施。両国は核保有国となった。」

ナレ「伊藤准教授は、インドが大規模なテロ攻撃を受けた場合にどう報復するか注目している。」

伊藤准教授「大規模なテロ攻撃を受けたときに、何もやらないっていうオプションはもうないんですよ。今のモ

ディ政権のインドにとってみると、何かやらなければいけない。少なくとも、去年の空爆と同等かそれ以上のことをやるという可能性があります。インド側は先行不使用を宣言しているんですけど、パキスタン側は力弱いわけですから、核兵器をどの時点で使うかっていうことを明確にしないというのが、基本的な戦略になります。」

伊藤准教授「ですので、それが一番があの怖いといえますか、その報復攻撃がパキスタンの許容できないレベルだと、パキスタン側が認識する可能性があるということです。この時に紛争がエスカレートすると。その時にそのケースでそのパキスタン画が核を先行使用するという可能性は否定できないと思うんですね。」

ナレ「両国が核保有国となり、緊張は高まった 98 年当時。日本はどんな役割を果たしていたのか。」

小淵恵三外相（当時）「両国が核実験に踏み切ったという背景には、このカシミール問題の、に対するインパの両国の考え方が存していることは、事実でありまして、今そういった意味で根源を取り除くということはしいては核実験も再度起こさないにつながることを思っております。」

ナレ「当時の小淵外務大臣は、紛争を調停する会議を東京で開催したいと仲介役を買って出たが、実現には至らなかった。」

ナレ「それから 20 年があまり、JNN のインタビューに応じたパキスタン側カシミール州のトップは改めて日本政府への期待を口にした。」

パキスタン側カシミール州 マスード・カーン州首相（吹替）「日本の人々が戦争核兵器の使用に対して特別な感情を持っていることは知っています。日本政府は核をめぐる動きを抑制するため、インドに対して影響力を行使すべきです。」

ナレ「その日本政府。安倍政権は現在、自由で開かれたインド太平洋構想をすすめ、インドは最重要国の一つとしている。」

安倍総理「モディ首相と共に手を携え自由で開かれたインド太平洋というビジョンの実現に向けて、」

ナレ「インド軍と自衛隊の共同演習も、規模を拡大しつつある。」

ナレ「だが、カシミール問題について、日本政府は注視しているとはするものの、静観の構えだ。インド政府もあくまで内政問題との立場を崩していない。」

伊藤准教授「世界最大の民主主義国ってことを自認しているインドに対して、我々はアジア第二の民主主義国いうことをしばしば首脳会談の中でも強調している。人権の尊重だとかあの報道の自由だとか、その基本的なやっばり、あの権利というものを、に沿った行動をとるように働きかけるっていうことは、あの価値を共有する友人としては、絶対に言うべきこと。はっきり言うべきという風に思いますけどもね。」

ナレ「一方、強いインド路線を進めるモディ政権も盤石ではない。今、インドでは内政問題で激しいデモが起きている。」

デモ参加者（字幕）「平和なデモなのに何をやるんだ」

ナレ「去年 12 月以来、強いインド路線をとるモディ政権下で、激しいデモが起き、1500 人以上の逮捕者、そして 20 人以上の死者が出ている。」

ナレ「原因はモディ政権による国籍法の改正だ。これはバングラデシュなど近隣の国からの不法移民にインド国籍を与えるものだが、一方でイスラム教徒の移民に対しては国籍を認めないというものだ。」

ナレ「イスラム教徒へ差別と批判が高まり、デモは収まる目処が立っていない。」

ナレ「ガンジー以来、異なる宗教の融和を図ってきたインドだが、人口の 85% を占めるヒンズー教徒の国へと舵を切ったのではと危惧されている。」

ナレ「治安の悪化により去年 12 月に予定されていた安倍総理のインド訪問も中止される異例の事態となった。」

菅官房長官「今般の現地情勢に関するインド側からの報告を受け、両国政府で協議の上、延期することとしまし

た。」

ナレ「ヒンドゥー中心、そして、反イスラムの色合いを強めるモディ政権の路線について、伊藤氏は、火薬庫でもあるカシミール問題の将来にも大きな不安を生み出しかねないと語る。」

伊藤准教授「本当にだから、危険な賭けに出てるっていう、賭け。短期的にはその政治的な支持を集めることができ、権力基盤を固めることには成功するかもしれないし、力づくでカシミールの治安を安定させたように見えるかもしれないですけども、大人になっての年齢になってきたときにどういう行動に出るかっていうことを考えると、非常に不安ですけどね。」

記者「軍が駐留していない場所では、このように川を挟んですぐあちら側にインド側カシミールの集落が見える場所もあります。人がで歩く姿も確認できます。」

ナレ「かつての平和がカシミールが垣間見えるような光景だが、実際には対岸との間には停戦ラインという言えない壁がある。国際社会から忘れられた紛争地。カシミール。住民はこう訴える。」

男性（吹替）「メディアと国際社会に聞きたいです。カシミールのために何をしてくれましたか？なぜ我々を人間として扱ってくれないのですか？」

特集のVTRを受けて、スタジオと中継の間で以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

膳場「取材したバンコク記者の、バンコク支局の太平記者は、現在フィリピンの火災のために火山の取材でマニラに行っています。中継を繋ぎます。カシミールというのはなかなか入ることのできない地域ですけども、現地の人々の声を聞いて何を感じましたか？」

大平記者「はいインド軍の砲撃を受けたパキスタン側カシミールの村を取材した際、住民から何度もインド側カシミールに入って、そこで何が起きているかを伝えるべきだと訴えられました。または彼らはインド側カシミールのことを、インドに占領されたカシミールと表現しました。家族や親戚が国をまたがって暮らす彼らにとって同じ一つのカシミールなのだなと改めて感じました。私たちは今回インド側カシミールも取材したいと二度インド政府に申請しましたが、許可は出ませんでした。」

日下部「問題の根源にね、長年における宗教的な対立がある以上ですね、緊張緩和というのはとても難しそうですね。」

大平「はい特にモディ政権のヒンズー至上主義が、今パキスタン側の危機感を高めているように感じます。停戦ラインの取材で実際に両軍が銃口を向ける現場を見た際、この引き金の先にもしかしたら核、戦争の脅威があるのかと恐れを覚えました。国際社会は両者の緊張が限界を超えてしまわないように注意する必要があります。そして被爆国である日本にも果たせる役割があるのではないかと考えました。」

膳場「以上特集でした。」

この特集に当てられた時間は1385秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特に問題なし

検証者所感

・ 共産党大会

政治家の動きとなるとどうしても自民党内の動きにスポットが当たりがちになってしまうが、こうした野党の動きや野党の在り方についてもしっかりと伝えてほしい。